孔雀夫人（1936）

DODSWORTH

メディア 映画
ジャンル ドラマ　ロマンス
製作国　アメリカ
色彩　B&W
時間　101分
初公開日 1937/11
公開情報 劇場公開

【解説】

ダズワース自動車工場の社長サム（ヒューストン）は手塩にかけた会社を大手に売却し、妻フラン（チャッタートン）のため欧州一周旅行に出る。仕事一筋の彼は満足に彼女をハネムーンに連れていってもやらなかった。が、まだ３０代後半と若いフランは派手好みで、船がロンドンに着こうとし、町のサーチライトに興奮するサムを尻目に、船内で知り合った英国紳士のロカート（ニーヴン）といちゃついている。彼は婦人に迫ってフラれると侮辱的な言葉を吐いて消える。フランはロンドンでは町を歩けないと言い、そのまま二人はパリに向かった。当地の上流のつきあいにすっかり魅了されたフランは、観光に退屈した夫をさしおいて、そこに居つくことに。初めは中年実業家のアイスリン（ルーカス）と深い仲になったフランは、欧州各地を回って帰った夫に諫められるが、若き男爵の息子クルトとウィーンに行ってしまっては、夫の堪忍袋の緒も切れる。彼は船上で親しくなったイディス（アスター）と、彼女の住むナポリで再会し、その屋敷にしばらく滞在。釣りをしたり帆船にエンジンを積んだりしてのんびり過ごす。知的で洗練されたイディスへの想いは次第に募り、妻との離婚も決意するサムだが、クルトの母の男爵夫人に拒まれて復縁を望むフランに、永年連れ添った責任があるからと、イディスには別れを告げて、妻と共に帰国の船に。が、そこでも他人の悪口しか言わないフランにさすがにうんざりし、彼は出航間際、とっさに下船し、イディスの待つナポリへ向かった…。ベストセラー女流作家シンクレア・ルイスの原作に基く、辛辣な熟年の愛を描く映画で、ヒューストンがアメリカ男の真っすぐさ、けじめ深さを真にうまく表現して水際立つ。女優陣も大変達者で、ワイラーの演出も手堅い。夫からの手紙をアイスリンがフランの前で燃やす場面で、火のついた手紙が風に舞うさまが美しく印象的。

【クレジット】

監督	ウィリアム・ワイラー	William Wyler
製作	サミュエル・ゴールドウィン	Samuel Goldwyn
原作	シンクレア・ルイス	Sinclair Lewis
脚本	シドニー・ハワード	Sidney Howard
撮影	ルドルフ・マテ	Rudolph Mate
音楽	アルフレッド・ニューマン	Alfred Newman
出演	ウォルター・ヒューストン	Walter Huston
	ルース・チャタートン	Ruth Chatterton
	ポール・ルーカス	Paul Lukas
	メアリー・アスター	Mary Astor
	デヴィッド・ニーヴン	David Niven
	グレゴリー・ゲイ	Gregory Gaye
	マリア・オースペンスカヤ	Maria Ouspenskaya
	スプリング・バイイントン	Spring Byington

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

グラント・ミッチェル　　Grant Mitchell

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.